

落葉の行方

野沢町会の会館の脇には、武蔵野の自然なたずまいを見せる林（写真）が広がる。ナラ、クヌギ、ソロなど。住宅が覗き込んでいられるけれど、緑の空間は、落ち着きを見せている。

仲町側から入ると上り坂、森林浴の、いい気分になったところで、しいの木台に抜ける。散歩の禁止・許可の札は出ていないから、まずまず絶好の散歩コースになっている。

地主さんはいらるはずで、林の管理は行われている。以前に、落ち葉は収集しないように、という掲示が出ていた。落葉は、堆肥として使用しているらしい。その農家を尋ね当てたら、観音寺の東、弁財天います蔽島神社の手前に出た。



野沢会館の林の落葉は観音寺の東の方まで運ばれていた



①野沢会館脇の林は、ほどよい光が差し込み、森林浴を楽しめる。②弁財天に近い森の道を抜けると野仏と彼岸花に出会う

一町二反もある屋敷の真ん中を東西に道が走る。観音寺を出た葬列は、ここを通り墓地に行つたという。通称じゃんぼん通り。いまは左の薄暗い森の中に、その代替の道があり、抜ければ野仏（写真）に出くわす。約百五十メートル、ほぼ屋敷の東西の長さである。屋敷の中に、いくつものビニールハウスがひしめいている。三反ほどあるそうだ。利用する土へのこだわりがある。野沢会館の林の落ち葉が集められ、それに利根川の堤防六キロほどの雑草を四ノダンプ百台で運びこむ。さらに藤心の田んぼの、膨大な稲わらを使用する。これをコンポストと混ぜ、三年間かけて土にする。

カブ、ホウレンソウ、コマツナなどが育ち、野菜苗の大規模な生産・販売を行う日暮園芸である。

高野槇のそばの住居は、百二十年ほど前の隠居所の建材が使われており、懐かしい昔の雰囲気があったよっている。

堆肥・土へのこだわり